

瀬音

第17号

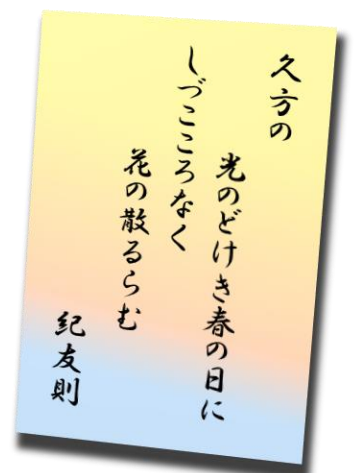
編集・発行／斐伊川漁業協同組合広報委員会／令和7年4月発行／雲南市三刀屋町下熊谷1272番地5／TEL(0854)45-2098



かけや夢の子園 あゆのつかみどり 2024/7/9

目次

組合長あいさつ 代表理事組合長 山根 成二	2
第74回通常総代会（議事・議決事項・報告事項・新役員）	2
令和7年度事業計画 支部長及び組合員数	3
斐伊川を訪れた文化人（15）谷川健一	4～5
斐伊川：自然と人間の共生を学究できる「知」の拠点	
北陸先端科学技術大学院大学 吉岡秀和 他	6～7
お知らせ	8
遊漁マップ・養殖アユの販売・組合員募集	



山根組合長あいさつ

代表理事組合長 山根 成二



組合員の減少が著しい状況です。組合員数は、八百名を切り、七百四十七名となりました。このまま推移すれば、当組合にも深刻な影響が出てくると危惧しています。

減少の原因は、瀬音十四号にも記載しましたが、①総人口の減少、②壮年・少年人口の減少、③趣味の多様化、④幼少期の川遊びの減少、⑤食生活の多様化などが考えられます。

これらの原因を克服し、組合員を維持していくことは、当漁協単独では困難なものが多くが実態であります。④幼少期の川遊びの機会の提供は可能ではないでしょうか。今でも「水辺の教室」事業を展開していますが、より広く「川に親しみ、川の恵みを体感してもらう」ことができないものかと考えます。例えば、各地域の子供さんへの「釣り」の機会を提供し、その漁獲物の食事を開くことなどは可能かもしれません。

そうしたステージを通して、子供たちが、成人たる漁家の技術を認識・取得し、また、脈々と受け継がれた斐伊川の恵みを実感してくれないかと思えます。更には、そうした活動への参加は、河川環境の大切さを身をもって感じるための貴重な教育の場ともなります。

課題は、財源と担うマンパワーです。財源は漁協での予算化も可能ですが、マンパワーの確保は、志のある支部の全面的な御尽力をお願いするか、支部の御協力の下で漁協に専任の短期雇用嘱託員を確保するかということとなります。いずれにしても、組合員各位のご理解・ご協力なくしては成り立たないものであります。

斐伊川の恵みを次世代に引き継ぎ、斐伊川漁協の将来を託せる人材の育成のために、叶うことなら実現させたいと願うものです。

第74回 通常総代会

全提出議案通り可決

令和7年3月16日午前9時30分より木次町下熊谷交流センターにて開催しました。

総代会の種類	開催日の現在総代数	出席総代数			
		本人	書面	委任	合計
通常	97名	57名	33名	2	92名



左から 千原佐介、山根義人、龜山眞二、山根成二、高橋修治 石金一記、白築俊幸、神庭 薫
当日欠席理事 富田真樹、小川直美

重要な議事及び議決事項

- 第1号議案 令和6年事業報告書・貸借対照表・損益計算書及び剰余金処分案承認の件
- 第2号議案 令和7年事業計画並びに収支計画書承認の件
- 第3号議案 定款一部改正の件
- 第4号議案 規約一部改正の件
- 第5号議案 令和7年における借入金の最高限度額決定の件
- 第6号議案 余裕金の預け入れ先及び金融債権の取得決定の件
- 第7号議案 令和7年における理事及び監事の報酬決定の件
- 第8号議案 令和7年賦課金の額・徴収時期及び徴収方法の件
- 第9号議案 任期満了による理事及び監事の選任の件

報告事項

- ① 増殖及び漁業生産力の発展に関する報告
目標増殖量に基づく増殖事業の他7つの計画目標について、すべての項目が履行されたことを報告。
- ② 一般財団法人斐伊川漁業振興会事業報告及び事業計画予算
放流事業を863万円、河川清掃の助成は19団体55万円、水辺の教室は28団体79万円、合計997万円を実施。
令和7年度事業計画は、放流事業862万円、河川清掃55万円、水辺の教室83万円の合計1,000万円計画。

理事及び監事名簿

役職名	氏名	就任年月日	備考
理 事	代表理事 組 合 長	山 根 成 二	平成28年3月13日 4期
	第一理事	高 橋 修 治	平成28年3月13日 4期 総務委員長
	第二理事	龜 山 眞 二	平成28年3月13日 4期 事業委員長
	第三理事	富 田 真 樹	平成31年3月17日 3期 総務副委員長
	理 事	山 根 義 人	令和4年3月13日 2期 事業副委員長
	理 事	白 築 俊 幸	令和7年3月16日 1期 総務委員
	理 事	小 川 直 美	令和7年3月16日 1期 事業委員
監 事	理 事	千 原 佐 介	令和7年3月16日 1期 事業委員
	代表監事	石 金 一 記	平成31年3月17日 3期
	監 事	神 庭 薫	令和7年3月16日 1期

令和7年度事業計画

① 放流事業

魚種	放流量
あゆ	600 kg
うなぎ	210 kg
やまめ	160 kg
やまめ成魚	210 kg
もくずがに	25 kg
ふな	30 kg
うぐい産卵場	3ヶ所
こい人工産卵床	3ヶ所

② 養殖事業

あゆ養殖は二万三千尾を計画し、病気や水質に対する徹底した衛生管理を図る。物価高騰に対し電気代等の経費見直しを行い、節減と効率化に努めながら消費者から喜ばれる美味しい「奥出雲斐伊川あゆ」の安定生産に取り組む。

③ 漁場管理事業

令和3年の災害復旧工事がほぼ終了し漁場が復旧しつつあるため河川環境、良好な漁場の保全に努める。北陸先端科学技術大学院大学吉岡准

④ 有害鳥獣駆除対策事業

教授に協力しあゆの生態や資源状況把握に努める。また、引き続き監視員による監視活動や一般財団法人斐伊川漁業振興会と連携して河川清掃に協力し環境保全の意識の醸成を図る。

⑤ 教育啓発広報活動事業

魚類の増殖保護のため有害鳥獣駆除助成金制度(カワウ一羽五千元、サギ一羽一千元、ブルーギル五百円/kg)による駆除や組合員の協力のもとと花火による追払いを本年も継続して実施する。関係機関に対し取り組み支援や連携を要望する。

一般財団法人斐伊川漁業振興会が取り組む自然体験学習「水辺の教室」に協力し子供たちに水質保全や生物多様性保全意識の醸成を図る。ホームページにおいて組合員や遊漁者から寄せられる釣果情報、河川情報等の情報発信や広報誌「瀬音」により組合情報や斐伊川がもつ魅力等の発信を行う。また、投網大会により組合員同士の繋がりを深める。

支部長及び組合員数

支部名	支部長名 (令和7年4月)	組合員数 (令和7年1月)
横田	田村 久夫	60
八川	渡部 和敏	57
馬木	蔦川 泰雄	39
亀嵩	内田 裕介	25
布勢	三澤 六三郎	19
三成	木山 厚夫	44
阿井	立石 好次	51
三沢	西村 幹範	23
温泉	勝部 博	34
日登	瀬尾 正明	26
木次	早島 三雄	45
大東	野々村一己	77
加茂	小林 由和	35
三刀屋	片寄 周二	47
鍋山	名原 英夫	56
多根	大田 稔	13
掛合	竹下 文夫	54
吉田	高橋 守	11
田井	松島 貞夫	19

一般財団法人 斐伊川漁業振興会

(財)斐伊川漁業振興会の役員改選があり
奥出雲町横田の勝田康則様が代表理事に選任されました。

新役員

役職名	氏名	備考
代表理事	勝田 康則	当日欠席
理事	錦 織 滋	
理事	高橋 修治	監事より理事へ
監事	落部 保信	
監事	龜山 眞二	新任
評議員	藤原 一永	
評議員	新 一 幸	
評議員	石原 武志	新任



退任理事
和泉 一郎(代表)
谷戸 邦夫

退任評議員
周藤 茂雄

雙伊川を訪れた文化人 (15)

「白鳥伝説と地名研究」

民俗学者・地名学者 谷川 健一

河角 守雄

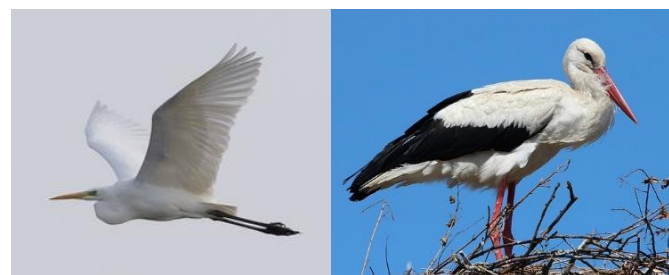
本年は谷川健一を取り上げることにしたが、氏は地名研究の第一人者であり、荒神谷遺跡加茂岩倉遺跡がある出雲は何度も訪れており、氏を中心に地名シリーズとして、妹尾河童、山口昌男、飯田賢一、中田英寿、武田鉄矢を。次には伊藤清司を中心とした芸能シリーズで牛尾三千夫、岡本太郎、丹波哲郎、平野勲、徐福、杉村春子を。

さらに稲と鉄シリーズとして、森浩一、村松貞次郎、山内登喜夫、白鷹幸伯、宮崎清、中沢新一を。



日本尊命の東征

今回からは、地元の研究者でもあった石塚尊俊、藤岡大拙、酒井董美、池田敏雄、浅沼博、高橋一郎、勝部正郊、内藤正中、川島美子を紹介するものとした。



古来、シロサギもコウノトリも白鳥で、オオハクチョウやコハクチョウより白鳥という意識が強かった。松江の大庭のニワトリ塚という古墳に金のニワトリが元旦にトキを作ったという伝説がある。

コウノトリが古来よりこの地に生息飛来していた説話として興味深い。

筆者は有吉佐和子から今回の投稿で七回目の寄稿となる。榎原茂氏を引き継いだものであり、通算では十五回を数えることとなった。そこで今回から趣を変えて、テーマでシリーズ化することとした。

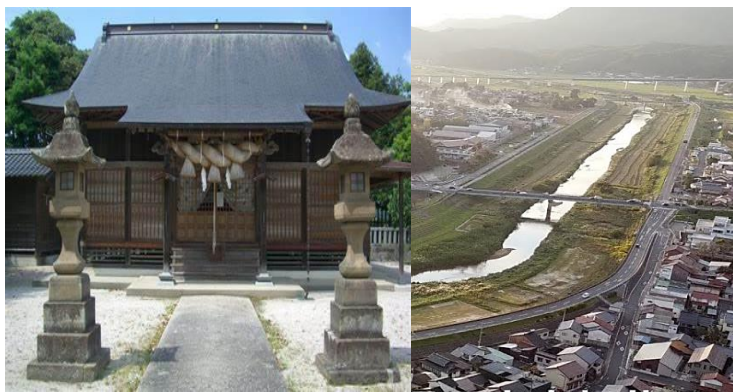
氏は地名を製鉄神話と結びつけて解説した人でも知られ、白鳥伝説はその最たるものである。日本尊命（ヤマトタケルノミコト）は第十一代景行天皇から熊襲（クマソ）退治を命じられ、九州からの帰り、出雲尊命（イズモタケルノミコト）も退治し、ヤマトに帰る。そしてここからが本題であるが、再び天皇から東征を命じられる。姻戚関係の熱田神宮に参拝し、草薙剣（クサナギノツルギ）と火打石を与えられ、東に向かう。

相模の国に来た時に、火に囲まれるが草薙剣と火打石によって難を逃れる。その場所が焼津であり地名として今に残る。そして蝦夷（エミシ）討伐も成し遂げ尾張に帰り、その後伊吹の神の化身と相対す。そこで傷つき病の後亡くなるが白鳥となって飛び立つ。

この伝説を氏は鉄人伝説として解説し、一つの大きな鉄の関わりとして示した。火はたたら製鉄の炎、伊吹山は伊吹おろしで知られる製鉄との関わりの深い山、そして大きいのが、鳥が導きの神であること。金屋子の記述がある「鉄山秘書」では播磨の国の宍粟郡岩鍋という所から金屋子神が白いサギとなって、西の方に飛んで、出雲の能義郡黒田の比田のカツラの木に止まった。そこが今の広瀬の金屋子神社である。

このように、白い鳥とたたら製鉄は結びつきが強く、鳥がつく姓は鳥の狩猟民族ではなく、鍛冶に関連する姓と呼ばれている。斐伊川沿いに点在する鳥谷、鳥屋などがそうであり、隣接県の鳥取もそうである。鳥取はくしくも現在の JAL の社長鳥取美津子氏や高円宮久子様のご旧姓は鳥取であり、物部氏に関連する一族と言われている。

筆者は氏が吉田に来村の時に



神原神社と赤川

天が淵の左岸側小木という地名について語り合ったことがあるが、それは天が淵の項に残しておくとする。

大原郡にあります斐伊川の流域の神原神社。戦後、斐伊川の堤を改修しようとして、神原神社の境内にある古墳を掘ってみましたところ、日本で 2 番目という景初三年の銘のある鏡が出てきたのです。(中略)オオナムチの神が沢山の宝物を積んでおいたからここは「神財の郷」(カムタカラのサト)と言わなくちゃならないのが、時の人がなまって「神原の郷」(カムハラノサト)と呼んだということ八世紀初頭の「出雲風土記に」書いてあるわけです。:(中略):そこを掘ったら三角縁神獣鏡(サンカクブチシンジユウキヨウ)という鏡が出てくる。



神原遺跡



神原古墳出土の三角縁神獣鏡

そして、いろんな鉄製品も出てくる。これは地名がそれを暗示しているのです。

氏はここで斐伊町の池田敏雄が書いた「斐伊町の地名」を紹介し、「ハジハラ」(土師原)が後に「テジンバラ」(天神原)に変えたいきさつの中に「土師」と菅原天神のいきさつから考察している。

氏によれば天から舟で降りてくるのは物部しかなく、斐伊のイワフネの諏訪神社が建御名方命(タケミナカタノミコト)が降りてきたところというのは諏訪信仰によるもので地名研究の上ではおかしいと指摘している。

かつて村下の技術は卓越した技術で、村下は神であり、神として見られた時代がある。天目一箇

神(アメノマヒツツカミ)がある。この神は全国に存在するがそれは村下(ムラゲ)の炎を見る姿であり、崇拜のあらわれであった。

「出雲風土記」にも、大東町阿用に目一つの鬼が出てきた説話がある。怖がって両親が竹藪の中に隠れていたら、竹の葉が動いた。そしたら、田を作っている男が目一つの鬼に食べられて「アヨアヨ」といったから阿用という地名となった。

この説話に私たちは何を感じるのでろうか。

【後述筆記】

今回は多くの方々の紹介となりましたが従来と同様に敬称略とさせていただきます。しかし、現皇族の方もおられ、敬称略とは行かない状況がうまれ、流れの中で表記の統一性が失われる号となった。

さらに、冒頭では連載のお約束をしているにも関わらず、この後述筆記は病院のベッド上での記載で、文中の半分は病院での記載になった。先行きが心配される状況である。

斐伊川：自然と人間の共生を 学究できる「知」の拠点

はじめに

時の流れは早く、斐伊川のアユと環境について研究を開始してから約九年半が経過しました。私どもの研究は二〇二三年度上旬から海外の研究者も交えた国際的な研究へと発展し、今も裾野が広がってきています。私どもの多くは県外の所属となりましたが、その後も変わらず斐伊川を中核的な研究フィールドとしています。今回は、アユや環境のみならず、組合員の方々が自身に関係する結果もご紹介いたします。

北陸先端科学技術大学院大学
岩手大学
同志社大学
岐阜大学
吉岡秀和
濱上邦彦
辻村元男
吉岡有美

アユや組合員の皆様について

組合員の皆様(その中のおひとりをおX氏とします)のご協力のもと、二〇二三年も無事に斐伊川のアユ体重データを収集できました。図1は、二〇二一年、二〇二二年、二〇二三年の斐伊川のアユ体重データです。二〇二三年のアユは二〇二一年や二〇二二年と比較して後半期間の体重が小ぶりであるという分析結果が得られています。また、二〇二三年のアユの全体としての成長の様子は二〇二二年と近いという結果で

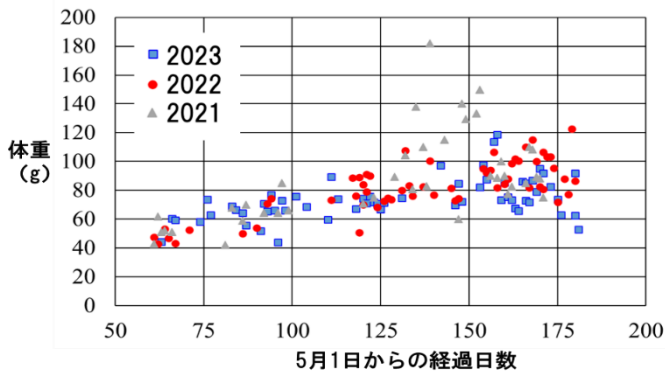


図1: 2021年、2022年、2023年における斐伊川のアユ体重データ

した。

さて、X氏の漁獲履歴から、釣り人がどのような頻度で河川にアユを獲りに来るのか類推できないでしょうか。こうした分析は、遊漁券の売上げ予測や河川の見回り制度設計に役立つかもしれません。二〇一六〜二〇二三年の八年間の夏から秋におけるX氏の漁獲日の間隔について、平均値と標準偏差(ゆらぎ)は二・二日と二・五日でした。また、X氏は平均して二〜三日に一回斐伊川にアユを獲りに来ること、来訪の間隔は無記憶性(過去の経験に基づくことなく次が決まるランダムな現象)に対応する乱数分布では上手く表すことができない、ということがわかりました(図2)。X氏以外にも多くの方が斐伊川でアユを獲っており、各々、来訪の程度は異なるでしょう。まだ検証データはありませんが、上手いけば「斐伊川のアユを獲る人たちの行動理論」ができるかもしれないかもしれません。

組合員の行動理論についての分析はまだ続きます。二〇一六〜二〇二三年(二〇二〇〜二〇二二年は開催されず)の投網大会における、参加チームの漁獲数を分析しました。各年について、各チームの漁獲数を優勝チームの漁獲数で割ることで0から1の間の数となるよう整理し、すべての年について総合した結果が図3です。大会では、漁獲数が多いチームと少ないチームに二極化することが理論的に示唆されました。実際に大会の様子を観察してみると、早々に見切りをつけて切り上げるチームもあれば、終盤に大量のアユとともに帰還するチームもあります。二時間という短い競技時間の中で、長年培ってきた勘や経験知が駆使されていると推察されます。

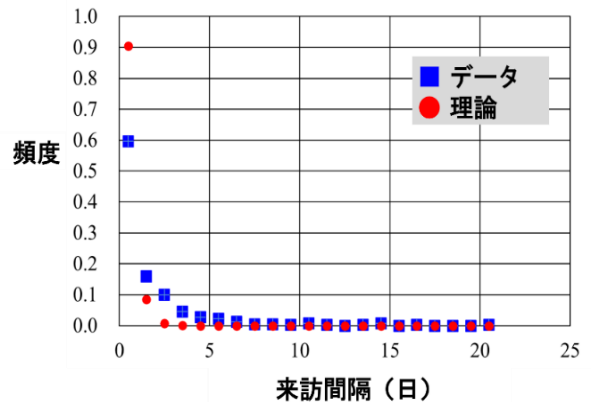


図2: X氏の来訪間隔のデータと(合わない)理論

藻類剥離と土砂還元について

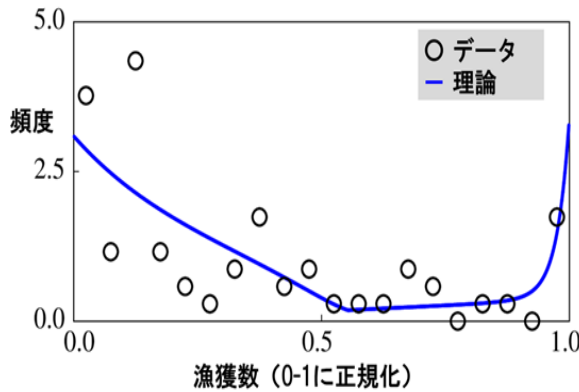


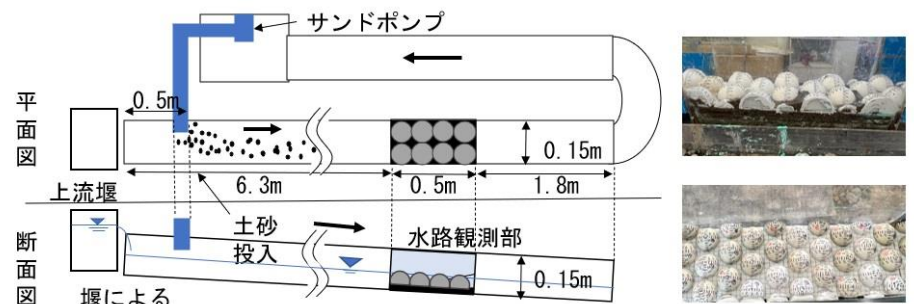
図 3: 投網大会における漁獲データと理論

尾原ダムの下流における土砂還元を念頭に置いた岩手大学での水理実験について、実験条件を変化させながら継続しています。先行研究では、河川に還元された土砂の量によって河床への土砂の堆積の様子、これに伴い藻類剥離の様子も変化することが示唆されました。そこで、河床にある礫の配置や密度が土砂の堆砂高さ(還元した土砂が堆砂する厚みのこと)に及ぼす影響について、重点的に実験しました(図 4)。その結果、河川幅 $1(\text{m})$ あたりの流砂量 q_B が $4.0 \times 10^{-5} (\text{m}^2/\text{s})$ より小さい

と(平水時に相当)礫の間隔がカワシオグサの剥離分布に影響を及ぼすこと、礫の間隔と堆砂高さには負の相関があることがわかりました。一方、流砂量が $4.0 \times 10^{-5} (\text{m}^2/\text{s})$ より大きいと(出水時に相当)、礫の間隔に関係なくカワシオグサがよく剥離することもわかりました。流砂量は還元した土砂量と流量から決まるため、実際の事業では双方を調整する必要があると言えます。

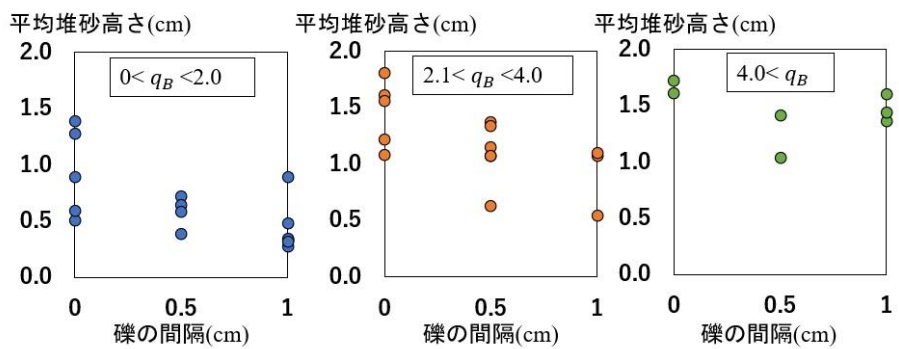
さて、令和六年度以降も尾原ダムにおける土砂還元は試行が続いています。ただ単に土砂を入れるだけが土砂還元ではなく、入れた土砂が適度に流下するような河川流況の創出も求められます。例えば、せっかく設置した置土が流亡しないままで単にヨシ原が仕上がるだけとなりかねません。いかに自然に寄り添うかが問われるでしょう。

水産庁の令和三年「内水面漁業・養殖業」によると、内水面漁協の組合員数は 55 万人(一九八〇年代)から 27 万人(二〇二〇年代)、組合数は 八八八(二〇〇〇年)から 八〇二(二〇一九年)に減少しています。私



実験装置図

礫の配置



平均堆砂高さ礫の間隔との関係

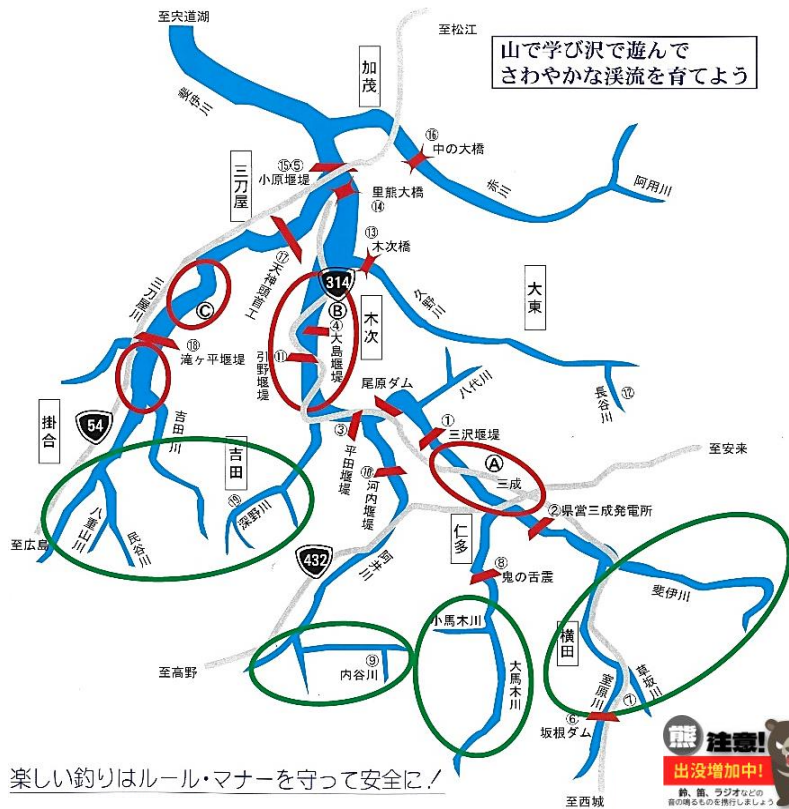
図 4: 実験の装置と結果。図中の q_B の単位は $\times 10^{-5} (\text{m}^2/\text{s})$

どもは、同庁のデータから斐伊川漁協は組員数で国内上位 30% に入る漁協であると推定しています。実は、斐伊川漁協は比較的大きいのです。

昨今、皆様もご存知のように「持続可能な〇〇」といった標語が多く打ち出されています。その実現のた

めには費用と効果のバランスが重要ですが、マンパワーや戦略も求められます。持続的な斐伊川や斐伊川漁協に貢献できますよう、これからも研究を続けて参ります。皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

【謝 辞】 本研究は、文部科学省科研費 (22K14441、22H02456) の援助を受けました。



斐伊川漁業協同組合 遊漁MAP

●あゆ友釣専用区●

①	仁多郡奥出雲町三成 三成大橋から上流 1,600 km (県営三成発電所放水口まで) 7/1 正午~7/31 まで 釣りを除く全漁法禁止
②	雲南市木次町西日登 国道 314 号線高瀬大橋から上流 400m (大島地内用水堰堤下流 90m まで) 7/1 正午~8/31 まで 釣りを除く全漁法禁止
③	雲南市三刀屋町粟谷 三刀屋川発電所放水口より下流 400m 7/1 正午~8/31 まで 釣りを除く全漁法禁止

●あゆ釣りスポット●

斐伊川	三成 … 佐々木橋上流 日登 … 大島・吉井 温泉 … 猿渡橋上流
三刀屋川	三刀屋 … 成木・粟谷・三刀屋金属裏 掛合 … 松尾橋上流・掛合中学校裏

●溪流釣りスポット●

斐伊川	竹崎 … 斐伊川上流 八川 … 下横田川・室原川 馬木 … 大馬木川・小馬木川 上阿井 … 阿井川上流・内谷川
三刀屋川	掛合 … 三刀屋川・八重山川 吉田 … 民谷川・吉田川上流

楽しい釣りはルール・マナーを守って安全に！

【解禁日】 溪流魚 3/1~8/31 あゆ(釣・投網) 7/1 正午~

斐伊川あゆ

清流の女王 魚も食べよう！

料金表

あゆ料金	一般	組合員	その他
~ 6/25	170円	170円	進物用箱
6/26 ~ 7/ 5	190円	190円	300円
7/ 6 ~ 7/15	210円	210円	活魚用袋
7/16 ~	230円	210円	200円

※税込み価格

家庭や地域での つかみ取りイベント や 中元等の 贈答品 にご活用ください。

ご注文は **早期予約** をお願いします

斐伊川漁業協同組合 ☎0854-45-2098

2026 (令和8年)

組合員募集

詳しくは、斐伊川協へ

年券購入者であれば、准組合員として加入可能

出資金 10,000円 (入会時のみ)

年会費 6,000円

2025/10/31 までの申し込みで 2026/1/1 組合員加入となります